

中国の小学校国語教科書が描く自然・人間・社会 ——人民教育出版社『義務教育課程標準実験教科書 語文』 四年級下冊を中心に——

西 川 真 子

はじめに

中国の義務教育課程国語科目の教科書『義務教育課程標準実験教科書 語文』四年級下冊¹（人民教育出版社刊）の中の精読教材は第1課所収の李白「独坐敬亭山」（「独座敬亭山」）²から始まり、第31課「普罗米修斯」（プロメティウス）³で終わる。中国で最も親しまれている詩人李白の作品と、古代ギリシャに誕生しヨーロッパ文明に多大な影響を与えたギリシャ神話の中の英雄プロメティウスを主人公とする物語が、それぞれ中国の小学四年生の国語教科書の巻頭と末尾に据えられているのは偶然ではない。

学校教育における、教科書とは何か。とりわけ義務教育課程の中で大きな比重を占める国語科目の教科書は、如何なる方針の下にどのような教材から構成されるのか。筆者は現代中国の義務教育課程国語科目の教科書の特色を明らかにすべく、教科書に収められる教材構成の分析と、教材の中に盛り込まれる知識並びに価値観の解明を目的に研究を進めてきた。⁴その過程で中国の義務教育課程で用いられる国語教科書には、言葉と文章を習得し言語能力を培うための教材に加え、国家の価値観を反映し多様な教材が載録されていることを確認してきた。すなわち現代中国の国語教科書の中には、国民が共有し継承すべき古典文学作品等伝統的な教材の他に、首都北京をはじめ国内の特色ある地域を主題とする紀行文、社会主義的思想道徳の涵養を目的とする教材、中国の現政権の樹立に対して功績のあった国家指導者の紹介文、各国で親しまれている外国文学の作品や文化的事象

を紹介する文章、外交上中国と関わりの深い国家地域を理解する為の読み物、人間の生活に深くかかわる科学知識の啓蒙教材等が含まれる。

中国の国語教科書は、このように多岐にわたる内容をどのように取舍選択して構成されているのか。本稿では中国の国語教科書に関する研究の一環として、中国の義務教育課程国語教科書所収の教材が如何なる意味を持ち、どのような目的で載録されているのか、特に教材中に描かれる自然、人間、並びに社会の關係に着目して考えたい。

研究に当たっては、現在中国の義務教育国語課程で最も広範囲に使用されている人民教育出版社刊『義務教育課程標準実験教科書 語文』（以下、『語文』）の中から四年級下冊（以下、『語文』四年下冊）を主要な資料として分析を進める。

現在、中国の義務教育課程で使用されている国語教科書は、教科書の出版に実績を持つ教育系の出版社を中心に教育関係者等専門家によって編集され、国家の審査認定を得た後に発行されている。また、その編集に当たっては教育部が定める「語文課程標準」⁵と呼ばれる教科指導指針に準拠することが不可欠となっている。「語文課程標準」は中国の義務教育課程国語科目の実施に対し基本方針を示すと同時に、義務教育課程における各段階の学習進度についても基準を示している。その中で学習者の到達目標として、「小学4年生終了時には約2500字の漢字を理解し、叙述文の大意を理解できること」と定める。また小学校課程の国語教科書を概観すると、小学4年時には教材の内容も童話等児童向けの文章から新聞並びに一般書籍の水準に近づき、人文的社会的知識を問う文章が徐々に増えていく。よって本稿では、中国国民に求められる読解力を養成する上で最初の画期となる段階で用いられる教科書として、『語文』四年下冊を考察の対象とする。『語文』四年下冊中の教材には如何なる価値観が投影されているのか。以下に考察したい。

I 『語文』 四年下冊各課教材の内容

はじめに本章では、人民教育出版社『語文』四年下冊に収められた各課の教材の内容を確認する。『語文』四年下冊は、精読教材17篇、略読教材15篇、合計32篇の教材と巻末に集められた選択教材から構成される。精読教材と略読教材は、それぞれ主題が与えられた8つの単元の中に割り当てられているが、各単元の主題とそこに収められた教材を記すと以下のようになる。

『語文』四年下冊 精読教材全8単元（精読教材17篇、略読教材15篇）

* 精読 = 精読教材、略読 = 略読教材

* 括弧内は教材中の原作者或いは文中の登場人物の国籍、内容の舞台とされる国家地域等を示す。表記の無いものは中国に関する教材。

第一単元 山河巡礼

精読 第1課「古诗词三首」（「独坐敬亭山」「望洞庭」「忆江南」、

第2課「桂林山水」、第3課「记金华的双龙洞」

略読 第4課「七月的天山」

第二単元 誠実な態度

精読 第5課「中彩那天」（欧州某国が舞台）、第7課「尊严」（米国が舞台）

略読 第6課「万年牢」、第8課「将心比心」

第三単元 大自然の啓示

精読 第9課「自然之道」（米国の作家ブルーメンソール原作、ガラパゴス諸島が舞台）、第11課「蝙蝠和雷达」

略読 第10課「黄河是怎样变化的」、第12課「大自然的启示」

第四単元 戦争と平和

精読 第13課「夜莺的歌声」（独ソ戦争中のソ連域内が舞台）、

第15課「一个中国孩子的呼声」

略読 第14課「小英雄雨来」、第16課「和我们一样享受春天」

第五单元 生命への讃歌

精読 第17課「触摸春天」、第19課「生命 生命」

略読 第18課「永生的眼睛」(米国人作家リンダ・リフォース原作)、
第20課「花的勇气」

第六单元 田園の生活

精読 第21課「乡下人家」、

第23課「古诗词三首」(「乡村四月」「四时田园杂兴」「渔歌子」)

略読 第22課「牧場の国」(チェコの作家カール・ハビック原作のオランダ紀行記より)、第24課「麦哨」

第七单元 不屈の追求

精読 第25課「两个铁球同时着地」(イタリアの物理学者ガリレイの逸話)、
第27課「鱼游到了纸上」

略読 第26課「全神贯注」(フランスの彫刻家ロダンの逸話)、
第28課「父亲的菜园」

第八单元 物語の世界

精読 第29課「寓言两则」(「纪昌学射」「扁鹊治病」)、

第31課「普罗米修斯」(ギリシャ神話からプロメティウスの故事)

略読 第30課「文成公主进藏」、
第32課「渔夫的故事」(『千一夜物語』より)

上記の教材は、如何なる考えに基づいて配列され、互いにどのような関係に有るのか。教科書の中核をなす精読教材を中心に、『語文』四年下冊の成り立ちについて以下に考察を進める。

義務教育課程国語科目においては、自国の作家によって書かれ歴代読み継がれてきた文学作品を鑑賞し理解することが大きな目標となる。『語文』四年下冊もこの点を反映し、第一单元は祖国の山河を詠った文学作品の鑑賞を第一の目標とする。精読教材には、第1課「古诗词三首」に唐代の三

人の詩人の作品、すなわち李白「独坐敬亭山」、劉禹錫「望洞庭」、白居易「忆江南」の三首を連ねるのにつづき、第2課「桂林山水」、第3課「记金华的双龙洞」が取り上げられている。

第1課に選ばれた三首の詩は、いずれも盛唐から中唐を代表する詩人が、中国の名勝として知られる風景を前に自らの感慨を表現した作品である。教師用指導書によれば、第一首の李白「独坐敬亭山」に対しては、李白が孤獨な人生に思いをはせ、鳥も雲も去り行く中で孤高にたたずむ敬亭山に自分をなぞらえる作品であると理解する事が目標となる。同じく第二首の劉禹錫「望洞庭」は、月光に照らされて白く光る洞庭湖に緑をたたえた君山が浮かぶ光景を、作者が「白银盘里一青螺」と詠んだ表現の手法を理解すること、第三首白居易「忆江南」は作者の江南に対する思いを読み取ることに主眼がおかれている。児童はこれらの作品を鑑賞し文学作品の舞台となった中国の代表的景勝地を知るとともに、美しい風景を表現する文学的感性を学ぶものと期待されている。

第2課「桂林山水」も中国を代表する景勝地桂林を讚える散文である。桂林は中国西南部の広西チワン族自治区に位置し、2014年には世界自然遺産「中国南方カルスト」の一部として追加登録された。この教材の原作者、陳森（1927-1981）は中国共産党黨員で1950年から文学作品の創作を開始し、中国作家協会会員としても活動をおこなってきた。教師用指導書によれば、この教材は「情景交融」すなわち、美しい風景とそれを目の当たりにした時に生まれる抒情を渾然一体とさせて表現した作品と評価されている。⁶この教材を通じて学習者は、桂林を描写する作品の代表作としてこの教材の全文を暗誦し、特に「桂林山水甲天下」というフレーズを記憶することが求められている。⁷

第3課「记金华的双龙洞」（金華の双龍洞について）は、現代中国の語文教育に大きな影響を与え人民教育出版社の初代社長を勤めた葉聖陶を原作者とし、基礎教育課程で学ぶ紀行文の模範教材と位置づけられている。⁸この教材の主題である双龍洞は、中国浙江省金華市郊外にある鍾乳洞で、国

国家重点風景名勝区の指定を受けている。第2課の桂林と同様にこの教材も、特異な地形景観として知られる場所を現代中国の作家が訪れて記した紀行文に分類される。

以上のように、第一単元では三つの精読教材を通じて、文学者たちが名勝の景観を如何に表現し文学作品に昇華したかを学ぶ。美しい自然景観を文学的に表現することは中国文化において不可欠な要素であり、学習者はこれらの作品を鑑賞し暗誦することを求められる。名作と評価される文学作品を暗誦することは国語能力の向上に結びつくだけではない。学習者は作品を暗誦する過程で中国各地の景勝地に対する知識を獲得し、国民が共有する文化知識の土台が形成されることになる。

第二単元には、人間の生き方を示す教材が載録されている。同単元の主題は「誠実な態度」とされ、第5課「中彩那天」(籤に当たった日)と第7課「尊严」(尊厳)が精読教材に当たる。

この単元には、人間は人生の如何なる場面でどのような態度をとるべきなのか、他者への誠意と自分自身の尊厳を守るために如何に行動すべきなのか、その模範例を示す教材が収められている。二つの精読教材はいずれも欧米を舞台とし人間と金銭の関係を説く。まず第5課「中彩那天」は、第二次世界大戦前欧州の某国のある町⁹の貧しい家庭で父親が手元に持っていた宝籤が当選しベンツ社の真新しい自動車を受け取る権利を得た事とその後の展開を語る。本文には、父親が籤に当選し新しい自動車を受け取ることを知り「わたし」は大喜びしたが、当の父親は困惑した表情を浮かべた様子が語られる。何故なら、その籤は父が自分の同僚のために購入し保管していたからだった。父は悩んだ末、その当たり籤を本来の持ち主に手渡した。本文は、成人後「わたし」は漸く当時の父の行動を理解したという言葉で結ばれる。

この教材の学習目標は、誠実な態度を堅持することは精神的財産の蓄積につながると知ることにある。教師用指導書は、「父親が直面した道徳的難題」を如何に克服したか、すなわち黙っていれば自分のものになる当たり

籤を本来の所有者に手渡した、その誠実な態度を本文から読み取ることを求めている。¹⁰

第7課「尊厳」も、経済的利益と道德規範の間で如何なる道を選ぶのか、心の葛藤を問題とする。同課の本文は米国を舞台に如何なる場合も自らの労働によらなければ報酬を得る資格は無いという信念を貫く青年を主人公とする。本文によれば、ある冬の日に一人の痩せこけた青年が災難を逃れて南カリフォルニアの小さな村にたどり着いた。村長は青年を不憫に思い食物を差し出したが、青年は「働かずに食べ物を受け取るわけにはいかない。何か自分にできる仕事をしたい」と答えた。村長はこの青年の精神にうたれ、自分の農園で雇うことにした。そしてこの文の最後は、「二十数年後、この青年は大きな成功を手に入れた。彼こそが石油王ハマーである」¹¹という言葉で結ばれる。

この教材について、教科書の欄外には「本文の原作者は李雪峰、教材として編集時に一部改訂」と注記されている。¹²ただし改訂について具体的な説明は無く詳細は不明である。教師用指導書もこの教材について「自分の言動によってその尊厳を守ること、他者から尊敬を勝ち取り、自分の命運を変えた物語である」¹³と述べるが、本文の原作、並びに改訂の詳細について説明は無い。但し、教師用指導書には関連資料としてアーマンド・ハマーを紹介する短文が有り、以下のように記されている。

[アーマンド・ハマー] 1989年、米国ニューヨーク市生まれ、米国オクシー石油の会長を務めた、特異な経歴を持つ人物である。彼は西側社会では世界的な富豪として知られる一方、ソ連並びに中国では「紅い資本家」としてつとに名高い。1956年、ハマーはそれまでに蓄えた財産を投じて当時破産寸前だったオクシー石油を再建し、石油王国を築いた。その結果1982年には彼の石油会社は世界第八位を占めるまでになった。1979年、鄧小平の招聘に応じ、81歳のハマーは史上初めて自家用飛行機で中国を訪れた西側企業家となった。鄧小平は彼を「勇

敢な人」と讃えた。その後、オクシーは中国と一連の経済協力事業に調印し、1988年には中国少年児童基金会に2万米ドルを寄付した。¹⁴

この資料では、アーマンド・ハマーはロシア移民の家系に生まれた米国人企業家で、ロシア・ソ連及び中国と関係の深い人物だと説明されている。また同文は、ハマーは中国において1970年代末に始まる鄧小平の改革開放政策を支持し、当時の西側諸国の中で率先して中国に対する経済支援を実施するなど、今日の中国の経済発展に貢献した人物だと述べる。だが、この資料には第7課本文の内容と一致する経歴は確認できず、ハマーの青年時代の経歴は不明である。また、現在出版されているアーマンド・ハマーの自伝¹⁵にも、この教材の内容にそのまま当てはまる記述は見当たらず、この教材に書かれたハマーの経歴を確認することは出来ない。ただ自伝には、ハマー家は元来帝政ロシア時代のウクライナ地方で暮らし、その後祖父の代から米国とロシアを行き来してきたことが記されている。¹⁶よって、この教材の内容は、注記にもあるように、作者の李雪峰がアーマンド・ハマー本人の経歴に彼の祖父と父親の移民体験を合成した形で構成した可能性があるかと推測する。

第三単元は、「大自然の啓示」を主題とする。精読教材は、第9課「自然之道」、第11課「蝙蝠和雷达」の二つである。第9課「自然之道」の原作は1989年7月26日付け『ニューヨーク・タイムズ』に掲載された“Human, All Too Human Tampering With Nature On A Remote Isle”¹⁷、作者は米国の作家 Michael Blumenthal である。

本文によると、「わたし」と7名の仲間は南太平洋のガラパゴス島を訪れた。そこで一行は浜辺で生まれたばかりの海亀の子が砂の中から顔を出したのを見つけ、同行のガイドに対し海鳥の餌食にならないように幼い海亀を海中に運ぶよう求めた。ガイドは躊躇したが一行の強い要求に折れ、海亀の子を海中へと運んだ。ところが、それを機に、砂の中から無数の海亀の子が顔を出した。最初の海亀が砂の中に戻ってこなかったため、外には

天敵はいないと判断し、多くの海亀の子が一斉に外に出てきたのだった。本文は、その結果、孵化したばかりの子亀が次々と海鳥の餌となり、一行は自らの軽率な行為を悔いたという一文で締めくくられる。

第11課「蝙蝠和雷达」(コウモリとレーダー)は、科学者がコウモリを観察した結果、コウモリには飛行時に障害物の有無を確認する能力が備わっていることを突き止め、これがレーダー装置の開発に結びついたことを紹介する科学読み物である。同課の目標は授業を通じて科学への関心を高めることにある。

第四単元は「戦争と平和」を主題とし、戦争の危機に直面する子供の状況を知るための教材が集められている。精読教材には第13課「夜莺の歌声」(ナイチンゲールの歌声)と第15課「一个中国孩子的呼声」(ある中国の子どもの声)が当てられている。

教師用指導書には、第13課「夜莺の歌声」は、独ソ戦争中ドイツの侵攻を受けたソ連陣営のある村で農民たちが抵抗運動を展開する最中、鳥の鳴き声を真似て味方に敵の接近を知らせ仲間を敵軍から守る少年の話であること、この教材の学習目標は戦争の中で子供たちが発揮した機知と愛国主義精神を理解することとある。¹⁸戦争を主題とする教材は、『語文』各冊の中で日中戦争、朝鮮戦争等を中国側から描いた教材が取り上げられている。¹⁹その中で「夜莺の歌声」は世界情勢における中国の政治的立場を反映しながら、中国以外の国家地域においても戦争に直面する子どもの存在を示す例として取り入れられた教材だと言える。

第15課「一个中国孩子的呼声」は、1996年、一人の中国人児童が当時第六代国連事務総長であったブトロス・ブトロス・ガリー²⁰に宛て書いた手紙という形をとっている。本文には、二年前に児童の父親が国連平和維持軍の一員として活動中に犠牲となったこと、父親が戦死し遺体となって帰国した際の光景を二年経った今も鮮明に記憶していることが記される。そして本文の最後は、中国の児童を代表しガリー国連事務総長へ戦争の撲滅と世界の平和をうったえる言葉で結ばれている。教師用指導書には、この

教材は「世界の平和を維持するために身を捧げた英雄に思いをはせ、国際政治に関心を抱き、世界平和を維持するための情熱を喚起する為に選ばれたと述べる。²¹

第五単元は、「生命への讃歌」を主題に、第17課「触摸春天」(春に触れる)、第19課「生命 生命」(生命 生命)を精読教材とする。この単元の目標は生命を慈しむ感情を育むことにある。そのため同単元に集められた教材の中では生命の鼓動を象徴する事象が取り上げられている。まず、第17課「触摸春天」は、盲目の少女安静を主人公とし、彼女が独自の方法で春の訪れを知り、「春」に触れる姿を描く。本文は、春の訪れとともに桃やコウシンバラが開花する様子を描くところから始まる。安静は花の姿を見ることは出来ずとも馥郁とした春の香りに導かれて春を感じる事が出来た。そんな彼女の手に奇しくも蝶々が止まり掌の中で羽を動かした時、彼女の顔には驚きと喜びの表情が満ち溢れた。安静は生まれて初めての体験に新鮮な驚きを感じたのだった。同課の本文は、「誰にでも生きて暮らす権利が有り、誰にでも自分だけの美しい世界を作り出す権利がある。(中略)安静がわたしにこの道理を教えてくれた」²²という言葉で結ばれている。教師用指導書もまた、この教材の目標を「盲目の子どもが生活に対し如何に積極的な気持ちを抱いているか、また作者が生命に対し如何に深い関心を注いでいるか、児童に理解させることにある」と述べる。²³

第19課「生命 生命」(生命 生命)は、「生命とは何か」について、原作者である杏林子が自問自答する形で展開する。この大きな主題に対し作者は、夜の灯りの下に集まってきた蛾の生命力やレンガの隙間に落ちた一粒の瓜の種が力強く発芽する様、聴診器で聞いた自分の心臓の鼓動などを例に、生命の力と価値について語る。だが、生命とは何か、この問いに明確に答えることは難しい。作者自身も答えを提示せず、文末を「生命は短い。だが、わたしたちは限り有る命に無限の価値を見出すことが出来る。だから、わたしは、何よりも生命を慈しみ、生命を無駄にせず、誇らしく力強く生きていこう」²⁴という一文で締めくくる。教師用指導書には、この教材

の教育目標として、「生命に対する筆者の考えを理解し、生命を慈しみ、大切に尊重し、限り有る生命に無限の価値を見出すこと」と有る。²⁵

この教材の原作者である杏林子(1942~2003)の本名は劉俠、幼児期に国民党の軍人であった父に従い台湾へ移り住んだ。12歳の時に患った大病が原因で全身に後遺症が残ったが、困難を抱えながらも文学を志し台湾を代表する作家となった。これに加えて、彼女は創作活動の傍ら身障者の自立支援にも尽力した。以上のように、第五単元は「生命の讃歌」を主題とするが、二つの精読教材はいずれも身体に障害を持つ人物の立場を反映した作品となっている。

第六単元は「農村の暮らし」を主題とする。この単元の主題について、教師用指導書は「田園に足を踏み入れ、村の暮らしに心を寄せる」²⁶と説明する。精読教材は、第21課「乡下人家」(村の人びと)と第23課「古诗词三首」(古詩詞三首)の二つが挙げられる。第21課「乡下人家」は、牧歌的な農村風景を描写し、畑の作物や四季の花、農家の庭先の鶏や小川に泳ぐ小鴨、秋を告げる虫の音の風情を細やかに記す。第23課は同じ中国の農村の風景を、中国の唐宋時代の詩人が詠った作品を以って紹介する。「古诗词三首」と題した同課には、翁卷「乡村四月」(郷村四月)、範成大「四时田园杂兴」(四時田園雜興)、張志和「漁歌子」(漁歌子)の三首からなり、いずれの作品も自然の中で農耕或は漁労によって暮らす村人の日常を題材とする。同課の学習目標は、文学者が田園風景を如何に描写してきたか、その代表作を学び全文を暗誦することにある。²⁷

第七単元は、「目標の為の弛まぬ努力」²⁸を主題とする。精読教材には、第25課「两个铁球同时着地」(二つの鉄球は同時に着地)と第27課「鱼游到了纸上」(紙の上まで泳いで来た魚)の二つが取り上げられる。

第25課「两个铁球同时着地」は、17世紀イタリアの科学者ガリレオ・ガリレイの逸話を題材とする。同課の本文は、ガリレイが古代ギリシャの哲学者アリストテレスの唱えた、「重さの違う二つの物体を同時に落下させると、重いものが先に地面に落ちる」という定説に疑問を抱き、衆人の見

守る中でピサの斜塔から重さの違う二つの鉄球を同時に落下させ、二つの鉄球が同時に着地することを証明した経緯を語る。これによって、この教材は、ガリレイを「信念を貫き科学的実験によって自説を実証した、不屈の精神の持ち主」として描いている。

第27課「魚游到了纸上」は、西湖のほとりで絵の修業に励む青年の物語である。本文によれば、「わたし」は西湖のほとりで金魚を熱心に写生する青年の姿を見かけた。青年の絵の巧みさに、これを見た人は「まるで魚が紙の上まで泳いで来たようだ」と驚き讚えたが、青年は周囲の喧騒をよそに絵を描き続けた。ある時偶然「わたし」は青年と親しくなり、彼が聾啞者だということを知った。「わたし」は彼に筆談で、「君の絵見て、皆が『魚が君の画紙の上まで泳いで来た』と賞賛している」と伝えた。すると彼はこれに答えて、筆談の紙に「その前にまず、魚はわたしの心の中に泳いで来たのだ」とにこやかな笑顔で答えた。教師用指導書は、同課の教育目標を「懸命に物事に取り組み、専念する精神を育むこと」²⁹とする。

第八単元は「物語の世界」³⁰を主題とする。精読教材には第29課「寓言两则」(寓言二話)と第31課「普罗米修斯」(プロメティウス)が配され、第29課「寓言两则」の中には「紀昌学射」(紀昌学射)と「扁鵲治病」(扁鵲治病)が取り上げられている。

第29課「寓言两则」中、第1教材「紀昌学射」は、中国の古典『列子』(湯問篇)に載る故事の一部を現代文に書き改めた教材である。同課の本文では、物語は紀昌という男が弓の技を極めようと志し、弓の名人飛衛に教えを請うところから始まる。これに対して飛衛は、弓を射る前に瞬きをしないように訓練すること、蚤のように小さな対象物も大きく見えるまで修練を積むことを命じた。そこで紀昌は毎日努力を重ね、飛衛が納得するだけの力が備わった後ようやく弓を射る修行に入り、百発百中の射手となったというところで終わる。この教材は、何事も技術を習得するには基礎を固めねばならず地道な修練が必要であることを説く。

第2教材「扁鵲治病」は中国戦国時代の名医扁鵲の伝説に基づく物語であ

る。本文は、名医として知られた扁鵲が蔡の桓公に謁見したところから始まる。扁鵲は蔡の桓公に謁見した際に「病を発しているので速やかに治療するように」と進言するが、桓公は自覚症状が感じられず取り合わなかった。後に病状が深刻になってから桓公は漸く事態を理解するが、扁鵲は既に他国に去った後で、手遅れであったという内容である。この教材の学習目標は、桓公に相手にされずとも真摯に患者に対応した扁鵲の、医師としての態度を理解すると同時に、桓公を反面教師として、他者から与えられた正しい意見に耳を傾ける姿勢の重要性を知ることにある。³¹

第31課「普罗米修斯」は、ギリシャ神話の英雄プロメティウスを題材とする。ギリシャ神話の中の英雄神プロメティウスは、人間が未だ火の存在を知らず苦しむ姿を憐れみ、危険を冒して天上の火を盗み彼らに分け与えた。これを知った最高神ゼウスはプロメティウスを捕えコーカサスの岩山に磔つけた。プロメティウスは何年も険しい岩肌に鎖で繋がれ、昼間は鷲に内臓を食われ、夜になると再生した内臓を翌日また食われるという果てしない苦しみに晒された。しかし、プロメティウスは想像を絶する痛みにも耐え続け、最後は怪力を誇る神ヘラクレスに助けられて自由を取り戻した。教師用指導書は、この教材が選ばれた理由を「外国の神話に親しみ、プロメティウスがギリシャ神話の中の神で英雄の化身ともいえるべき存在であること、人類の利益の為に強権に屈せず犠牲的精神に溢れた存在であることを理解するため」と説明する。³²

これらの教材は、時代を越えて長く詠み継がれ、読み手の精神を啓発する物語だと位置付けられている。学習者には、これらの教材を学習することにより正義と智慧が宿す無限の力を理解するべく期待されている。

Ⅱ 『語文』 四年下冊の単元相互の関係

前章では『語文』四年下冊に載録されている8つの単元の主題と各単元に集められた教材の内容を分析した。その結果、各単元が担う意味と全体の相互関係が明らかになり、この教科書の中心主題が浮かび上がる。本章

では、『語文』四年下冊中の単元相互の関連性を考えたい。

(1) 自然へのまなざしと文学表現

義務教育課程国語科目の第一の目標は母語としての言葉と文章の習得にある。『語文』四年下冊もこの目標に沿い、第一単元は中国の山河を詠う文学作品の鑑賞から始まる。前述のように、第1課「古诗词三首」には、李白「独坐敬亭山」、劉禹錫「望洞庭」、白居易「忆江南」の三作が並ぶが、これらは中国の名勝を詠んだ古典作品である。つづく第2課「桂林山水」は現代作家の紀行文という形式で景勝地桂林の風景を描写する。これは次の第3課「记金华的双龙洞」にも引き継がれ、桂林と同様に特異な地形の景勝地として浙江省金華市郊外の鍾乳洞「双龍洞」を主題とする紀行文が配される。

第一単元で示された、自然の景観とこれに向き合う人間の様相を定型詩や散文に表現する方式を直接受け継いでいるのは第六単元である。同単元に収められた教材はいずれも農村風景の描写を主題とする。学習者には、第21課「乡下人家」並びに第23課「古诗词三首」の中の翁卷「乡村四月」、範成大「四时田园杂兴」、張志和「渔歌子」を鑑賞し、文学者が農村風景を如何に表現してきたかを知り、自然の中で農耕漁労に携わる人間への共感を育むことを求められる。

(2) 自然から人間へ

第一単元では自然と対峙する文学者の作品が提示されたが、この流れは第三単元で自然への関心を高めることに重点を移し、大自然の摂理と人間との関係を主題として新たな展開を見せる。そこで第9課「自然之道」は種の保存のための自然の摂理に対する人間の姿勢を問い、学習者の関心を喚起することを目標とする。また第11課「蝙蝠和雷达」は自然観察から得た知識が科学技術の発展に寄与した例が取り上げられている。

人間の問題は、次の第四単元では戦争の危機に直面する子供に焦点を当

てて提示される。同単元の第13課「夜鶯の歌声」は独ソ戦争の最中にゲリラ活動に関わるソ連の子どもの姿を通して愛国主義精神を説く一方、第15課「一个中国孩子的呼声」は国連平和維持軍の活動中に父親を失った子供が国連事務総長に平和を訴える言葉で締めくくられている。生命の尊さを考えるための教材は、第五単元に受け継がれ、同単元中の第17課「触摸春天」は盲目の少女が如何にして四季の自然の移り変わりを知ることか、彼女が自分の手で外界に触れ春の訪れを感知する様子を記述する。学習者には、この教材から少女が宿す生命力と未知の世界を知ろうとする意欲を読み取ることが期待されている。第19課「生命 生命」も人間の生命に与えられた無限の価値を知り、生命に対する敬意を育むことを目標とする。教師用指導書によれば、この教材の原作者は十二歳の時に全身麻痺の障害を負っており³³、第17課と併せて身体障害を抱える人物が教材に取り入れられている。

様々な環境の中で生きる人間を描くという系譜は前述のように、農村に生きる人間を描く作品を取めた第六単元につづくが、同単元は農耕漁労に勤しむ人間に対し児童の関心を促すという目標を併せ持っている。第七単元はさらに明確に人間の生き方を主題とし、第25課に取り上げられているイタリアの科学者ガリレイと第27課に登場する聾啞の青年は、それぞれ科学と芸術、著名な科学者と文学作品の中の聾啞の青年という対照的な事例として選ばれているが、いずれも困難を恐れず「真理」を追及する人物として描かれている。

『語文』四年下冊の中で最後の第八単元には、中国の古典文学とギリシャ神話の中からよく知られた物語が収められているが、その中では第七単元と同様に人間として如何に生きるか、その模範像が描かれる。すなわち同単元の教材に描かれる紀昌、扁鵲、ギリシャ神話の中のプロメテウスもまた、困難に立ち向かい自分の信念を貫く姿を表している。

以上のように、第一単元に提示された自然と人間に関わる主題は、その後の各単元の中で展開し、与えられた環境の中で努力し困難を克服する人

間を描くという、一連の流れを形成していることが分かる。

(3) 社会的存在としての人間

前項で論じた「自然と人間」という主題の系譜ほかに、『語文』四年下冊には社会的存在としての人間を主題とする教材の流れが存在する。その核となるのは、人間と金銭の関係をとり上げる第二単元と人間と戦争を主題とする第四単元そして、人間の身体と生命を主題とする第五単元である。

まず、第二単元は「誠実な態度」を主題とするが、前述した如く精読教材に配された二つの教材は人間の金銭に対する倫理観に焦点を当てる。すなわち第5課「中彩那天」は、第二次世界大戦前の欧州を舞台に主人公一家が思わぬことから当たり籤を手にしたが、誠実な態度を貫き、籤を本来の持ち主に返す経緯を語る。また第7課「尊严」は、米国人企業家アーマンド・ハマーの青年時代の逸話と言う設定で、勤労によらざる報酬は受けてはならないこと、経済的成功と社会的賞賛は誠実に勤労する者にこそ与えられることを説く。³⁴この二つの教材は、いずれも中国ではなく第二次世界大戦前欧米の資本主義社会を舞台とする。現代社会において人間と金銭の関係を無視することは出来ない。ただし、中国の義務教育課程国語科目の中で人間と金銭との関係を無理なく論じ、なおかつ同じ教科書の中の他の教材との連繫を考慮した結果、上記2つの教材は舞台を第二次世界大戦前の欧米に設定しこの位置付けを与えられたと考える。

人間と金銭との関わりと同じく、戦争もまた人間社会に生じる難題である。『語文』各冊においても、様々な観点から戦争を主題とする教材が取り上げられているが、その中で、第四単元では戦争が原因で過酷な状況を生きる子どもに焦点が当てられる。すなわち第13課「夜莺的歌声」は独ソ戦争の最中、ドイツ軍に抵抗する村でゲリラ活動に関わる少年を主人公とし、第15課「一个中国孩子的呼声」は国連平和維持軍の活動中に父親を亡くした中国の子どもが平和を訴える内容となっている。

戦争は人間の生命を考える上で大きな問題であるが、日常生活の中にお

いても人間の生命について考えさせられる場面は少なくない。次の第五単元は人間の生命の尊さを主題とし、教材には身体に障害を持ちながら日常生活の中で生命の輝きを体現する人物を中心に据える文章が収められている。

このように、『語文』四年下冊では、社会的存在としての人間が直面する課題を、金銭と労働、戦争、人間の身体と生命という三つの側面から取り上げていることが分かる。

(4) 教材の多様性と相互関係

義務教育課程国語科目において、自国の文学作品に親しみ理解することは最も基本的な目標である。従って『語文』四年下冊にも第一、第六単元を中心に中国の文学作品が収められている。特に第一単元第1課に「独坐敬亭山」が配されている李白は中国の小学校国語科目の中で最も重視される文学者である。そのため『語文』全冊の中には「独坐敬亭山」を含め、一人の作家の作品として最多となる合計6篇が取り上げられている³⁵。

中国文学の名作を学ぶと同時に、「語文課程標準」には義務教育課程国語科目の教育目標として「文化の多様性を尊重し、人類の優れた文化のエネルギーを吸収し、文化的品位を高める」³⁶という一条が含まれる。この目標に対応し多様な文化を理解するために、『語文』各冊には国家地域の枠を越えて多様な内容が取り入れられている。よって前述のように、『語文』四年下冊所収の精読教材全17篇の中には、国際的に共有されている文化的歴史的事象並びに中国が重視する国外の地域並びにその文化の特色を反映した教材全6篇が含まれる。その中で、第5課「中彩那天」並びに第7課「尊严」は、ともに人間と金銭の問題を主題とする教材であるが、「中彩那天」は第二次世界大戦前の欧州を舞台に当たり籤を手にした家族を主人公とする創作教材であるのに対し、「尊严」はアーマンド・ハマーという、中国と関係の深い実在の米国人企業家を話の中心に据える。次に第9課「自然之道」は自然と人間の関係を考える上で世界の科学者から注目されるガ

ラパゴス諸島の生態系を主題とする教材である。第7課と第9課はともに、アーモンド・ハマーとガラパゴス諸島という名称を中国の児童が認識することを学習目的の一つとする。次いで第13課「夜鶯の歌声」は戦争という人類共通の難問を、独ソ戦争の最中にドイツ軍への抵抗運動に関わる少年の話を通して提示する。『語文』各冊には日中戦争をはじめ中国が直接関係する戦争を題材にした教材が取められているが、他国においても愛国主義精神に基づいて敵国への抵抗運動に投じた子供が存在することを説くために、同課が教材に選ばれたと言える。

中国という枠内にとどまらず、世界で受容されている文化的事象を紹介する事例として『語文』四年下冊には物理学者ガリレイの逸話を紹介する第25課「两个地铁同时着地」が載録されているが、『語文』全冊の中では、同二年下冊第30課「爱迪生救妈妈」(エジソン、母を救う)が米国の発明家エジソンの少年時代の逸話を、また『語文』六年下冊第18課「跨越百年的美丽」はノーベル賞を受賞した科学者キュリー夫人を主題とする。「两个地铁同时着地」は、これらの教材と連繫し世界の科学史の中で特に顕著な功績を挙げた科学者を知るための教材の中に位置付けられる。

第31課「普罗米修斯」もまた、世界中で親しまれているギリシャ神話の中からプロメティウスを主人公に据える教材として載録されている。「普罗米修斯」に関しては、この教材に先立って、『語文』三年上冊第18課「盘古开天」(盤古開天)が中国古代の神話から天地開闢神話の主人公である盤古を取り上げる。更に続いて、『語文』三年下冊第31課「女媧补天」(女媧補天)は中国古代神話の女神女媧を、そして同第32課「夸父追日」(夸父追日)も同じく中国神話の中の巨人神夸父を主人公とする教材として載録されている。これらの教材によって中国の神話について学んだ後に、「普罗米修斯」は外国神話の例としてギリシャ神話に基づいて編集された教材である。

このように『語文』四年下冊は文化の多様性を理解するために、中国の著名な文学作品から選ばれた教材を中核に据える一方で、国際社会で共有

されている、或いは中国にとって重要な意味を持つ対外事情を紹介するための教材を互いに関連させる形で構成されている。

おわりに

『語文』四年下冊には「自然と人間の関係」と「人間と社会の問題」という二つの流れが存在し、両者は相互に接点を保ちながら連携している。さらに、この二つの流れを形成する教材には中国の文学作品、世界各国で共有されている著名な文学作品や歴史的知識、中国のみならず世界が共に解決すべき課題、中国にとって重要な意味を持つ国外の事象等が提示されている。

はじめに述べたように、『語文』四年下冊の精読教材は中国を代表する詩人李白が孤高の秀峰の姿に自らの生き方を投影した作品から始まり、世界中に知られ西欧文化の礎ともなったギリシャ神話より、人間に天上の火を与えたために険しい山壁につながれ、それでもなお屈しなかった英雄プロメティウスの物語で締めくくられる。

それぞれの教材において、李白とプロメティウスは自らの信念を貫く人物として描かれるが、『語文』四年下冊には、両者と同様に不屈の精神を以て行動する人物が繰り返し登場する。すなわちその例として第29課の紀昌と扁鵲は中国古代の伝説上の人物としてプロメティウスと同じ単元に組み入れられており、第7課の米国人アーマンド・ハマーは鄧小平時代に中国を支援した企業家として取り上げられている。また、第25課の科学者ガリレイは、『語文』全冊を貫く「世界の科学史上に名を残した人物を理解する」という方針によって取り上げられているが、『語文』四年下冊においては「周囲の反対に屈せず自説を貫き科学の進歩に貢献した人物」と位置づけられている。このほかにも同書には、第17課「触摸春天」の中の盲目の少女、第27課「魚游到了纸上」に描かれる聾啞の青年等、過酷な状況に屈せず全力を尽くす人物が全編を通じて登場する。

それと同時に、物理学者ガリレイの逸話やギリシャ神話の故事は世界各

国で受け入れられ人類全体の財産として共有されているが、自然の生態系と現代文明の調和、戦争の撲滅と世界平和の実現等もまた国際的に解決を目指す問題である。よって、これらを主題とする教材には自ずと外国の事例も含まれ、『語文』四年下冊所収の精読教材全17篇の中には外国の文化と社会に関わる教材全6篇を含む結果となっている。

『語文』四年下冊だけではない。人民教育出版社刊『語文』全18冊の中には、旧ソ連とロシア、欧米、アフリカ、アジア等世界各国に関係する教材が多数取り上げられており、特に、旧ソ連とロシア、米国に関わる教材はそれぞれ約20件が載録されている。これらの教材は、『語文』教科書全体の構成の中でどのように位置づけられるのか。さらには唐詩など中国の文学作品をはじめとする伝統的国語教材と環境問題など現代社会に共通する課題を説く教材はどのように組み合わせられているのかは、稿を改めて考えたい。

-
- 1 『義務教育課程標準実験教科書 語文』四年級下冊（以下、『語文』四年下冊）人民教育出版社2004年第1版。
 - 2 同上第1課「古诗词三首」より李白「独坐敬亭山」。
 - 3 同上第31課「普罗米修斯」。
 - 4 西川真子「中国の小学『語文』の教科書 愛国のための儀礼を支えるキーワード」富谷至編『東アジアにおける儀礼と刑罰』（明文舎印刷）129-170頁2011年、同“Moral Norms China's Elementary School Textbook of Language *Yuwen* Tells of”「国際シンポジウム 東アジアにおける犯罪と道徳」報告書（2013年度科学研究費補助金基盤研究（A）代表：富谷至）83-100頁2014年、同「中国の義務教育課程国語教科書の特色について—人民教育出版社刊『語文』六年級下冊を中心に—」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第48号2015年。
 - 5 中華人民共和国教育部「義務教育語文課程標準（2011年版）」参照。
 - 6 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第2課「桂林山水」三教学建議9~10頁参照。
 - 7 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第2課「桂林山水」二教学目標9頁。

- 8 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第3課「记金华的双龙洞」一教材解説12～13頁。
- 9 同教材の本文には話の舞台は明示されていないが、本文に付された挿絵から欧州地域の町が物語の舞台であると判断できる。
- 10 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第5課「中彩那天」二教学目标、同三教学建議30～31頁参照。
- 11 『語文』四年下冊第7課「尊严」27頁。
- 12 同上25頁。
- 13 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第7課「尊严」一教材解説36頁。
- 14 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第7課「尊严」四相關鏈接39～40頁。
- 15 アーマンド・ハマー著、広瀬隆翻訳『ドクター・ハマー 私はなぜ米ソ首脳を動かすのか』ダイヤモンド社昭和62年参照。本書の原文は以下のとおり。
Armand Hammer with Neil Lyndon.: HAMMER. New York: G.P.Putnam's Son.
- 16 同上14～23頁。
- 17 原文は以下を参照。http://articles.philly.com/1989-07-26/news/26134678_1_sea-turtles-young-turtles-hatchling (2015年3月21日現在)。
- 18 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第13課「夜莺の歌声」二教学目标74頁。
- 19 『語文』各冊の中で日中戦争を取り上げた精読教材として、『語文』一年級下冊第23課「王二小」、朝鮮戦争に参戦した中国人民願軍兵士と北朝鮮人民の交流を主題とする『語文』五年級下冊第14課「再见了，亲人」が挙げられる。『語文』四年級下冊第四单元には第13課「夜莺の歌声」と並び略読教材として第14課「小英雄雨来」が載録されている。同課は抗日戦争の中で日本軍と戦う農村の少年を主人公とする。
- 20 ブトロス・ブトロス＝ガーリ (Boutros Boutros-Ghali, 1922年～) はエジプト出身の国際法学者。1992から1996年まで第6代国際連合事務総長を務め、在任中は国連平和維持活動 (PKO) の改革を推進した。
- 21 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第15課「一个中国孩子的呼声」一教材解説87頁。
- 22 『語文』四年級下冊第17課「触摸春天」83頁。
- 23 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第17課「触摸春天」一教材解説104頁。
- 24 『語文』四年級下冊第19課「生命 生命」90頁。
- 25 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第19課「生命 生命」二教学目标117～118頁。

- 26『語文 四年級下冊 教師教学用書』第六組前文129頁。
- 27『語文 四年級下冊 教師教学用書』第23課「古诗词三首」二教学目标144頁。
- 28『語文 四年級下冊 教師教学用書』第七組前文153頁。
- 29『語文 四年級下冊 教師教学用書』第27課「鱼游到了纸上」二教学目标168頁。
- 30『語文 四年級下冊 教師教学用書』第八組前文179頁。
- 31『語文 四年級下冊 教師教学用書』第29課「寓言二则」二教学目标182頁。
- 32『語文 四年級下冊 教師教学用書』第31課「普罗米修斯」一教材解読197頁。
- 33『語文 四年級下冊 教師教学用書』第19課「生命 生命」五相関鏈接120頁。
- 34 第7課「尊严」で取り上げられた米国人企業家アーマンド・ハマーが中国児童少年基金会への寄付という形で支援をおこなった経歴は、戦争の被害を受けた子どもへの支援を促す第五単元の趣旨とも関係をもつ。
- 35『語文』全冊の中に李白の詩は以下の6篇取り上げられている。一年上冊第6課「静夜思」、二年上冊第25課中の「贈汪倫」、二年下冊第17課中の「望廬山瀑布」、三年上冊第21課中の「望天門山」、四年上冊第20課中の「黄鶴楼送孟浩然之広陵」、及び四年下冊第1課中の「独座敬亭山」。
- 36 中華人民共和国教育部「義務教育語文課程標準（2011年版）」第二部分 課程目標与内容一「総体目標与内容」第2条参照。